

IES3・クリスタルビジョン450Dを用いた 手術現場における排煙装置の正しい知識と安全で効果的な使用について



医療法人徳洲会八尾徳洲会総合病院 手術室主任

八湊 貴則 様

【学歴】

1998年 河崎会看護専門学校 卒業
2010年 日本福祉大学 看護学科 看護学士単位取得

【職歴】

1998年 医療法人新生活会 総合病院高の原中央病院 勤務
2001年 同院 手術室主任
2006年 医療法人徳洲会八尾徳洲会総合病院 勤務
2008年 同院 手術室主任

【専門】

手術室看護師 整形外傷

【認定】

2010年 AOTラウマコース修了
2013年 ファーストレベル修了(認定看護管理者)
2015年 周術期管理チーム看護師認定

【所属学会】

日本手術医学会
日本手術看護学会
日本抗加齢医学会

ご所属は2023年5月現在の情報です

中央手術室実務経験20年。臨床現場だけでなく、国内初の医療用手術機材デジタルピッキングシステム(DPS)の開発を手掛ける。また、手術室運営のシステム化や映像インフラの構築など、既存技術やAIと医療の融合を考え邁進している。

はじめに

サージカルスモークの危険性が提唱されていたにもかかわらず、残念ながら日本の手術現場における排煙装置の認知度や使用率は、それほど高くはなかった。しかしながら昨今の新型コロナウイルス感染拡大に伴い、現場での感染予防対策の機運が高まり、2020年4月に各外科系学会の連盟からの緊急提言、そして手術医療の実践ガイドラインからも排煙装置使用の推奨がなされ、また各メーカーの積極的な姿勢により認知度や使用率が上がった。

このような背景によって、現在の手術現場における排煙装置の使用理由については、どちらかといえば医療従事者の感染リスク防止としての意味合いだけが先行しているように感じ、違和感を覚えるところがある。

